

モニタリング結果報告書（平成24年度下半期）

施設	厚木精華園
指定管理者	社会福祉法人かながわ共同会
指定期間	H18. 4. 1 ～ H28. 3. 31
施設所管課	障害サービス課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

利用者数については目標数には達しないものの概ね安定しており、利用者の高齢化に伴う支援の充実や地域生活移行に向けた取組みなども着実に実施されていることから、良好な事業運営が行われている。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認 通知日	確認方法			指導 等の 有無	備考（指導事項等）
			月 報 確 認	現 場 確 認	電 話 確 認		
10月	11月9日	11月9日	○	—	—	無	
11月	12月10日	12月10日	○	—	—	無	
12月	1月10日	1月10日	○	—	—	無	
1月	2月6日	2月6日	○	—	—	無	
2月	3月8日	3月8日	○	—	—	無	
3月	4月10日	4月10日	○	—	—	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	中高齢知的障害に対する医療的ケアの充実	平均年齢68歳と高齢化により、身体機能、嚥下機能の低下に伴い16名の医療的ケアの必要な利用者(口腔吸引11名、鼻腔吸引10名、経鼻経管2名、胃ろう6名)の方の特定の者対象とした医療的ケアを生活課職員全員対象に当園指導看護師にて実地研修を実施した。高齢者支援セミナーの中で、厚木精華園が蓄積してきた医療的ケアのノウハウを積極的に他施設に発信した。今後についても、更なる医療的ケアの充実をはかり、支援体制、運営体制などの検討を進めたい。
2	地域生活への移行の推進	アパートでの単身生活を希望する入居者がおり、関係機関と連携を図り希望を実現した(1名)、定期的に宿泊体験を実施し下半期は7名の利用があった。(平成25年4月から1名の方がケアホームに入居)老朽化したホームから、段差や階段などのハード面の問題があり、バリアの少ないホームへの転居を3名行った。ケアホーム近隣の地域行事に積極的に参加して地域住民との交流を図り、平成24年5月に新規に開所したひのきホームについては、近隣自治会の役員会にてホームの紹介を行い地域での定着を図った。今後も介護保険等を活用しながら地域での高齢知的障害者の暮らしを支えていきたい。

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)					0		0
予算額	前年度	249,509	456,003	21,935	727,447	722,870	4,577
	上半期	124,116	228,001	10,967	363,084	361,435	1,649
	下半期	125,393	228,002	10,968	364,363	361,435	2,928
	今年度	249,509	479,128	12,712	741,349	715,452	25,897
	上半期	124,116	239,564	6,356	370,036	357,726	12,310
	下半期	125,393	239,564	6,356	371,313	357,726	13,587
下半期実績額	10月	18,402	47,846	3,207	69,455	47,232	22,223
	11月	18,402	44,626	636	63,664	48,258	15,406
	12月	33,395	42,045	603	76,043	102,381	▲ 26,338
	1月	18,402	42,501	847	61,750	48,398	13,352
	2月	18,402	39,456	942	58,800	59,069	▲ 269
	3月	▲ 1,961	44,376	9,385	51,800	124,181	▲ 72,381
	今年度 下半期合計	105,042	260,850	15,620	381,512	429,519	▲ 48,007
	前年度 下半期合計	125,393	237,338	22,070	384,801	393,020	▲ 8,219
	対前年度下半期比			③	-0.9%	9.3%	
参考	今年度 上半期合計	124,116	272,841	5,814	402,771	331,051	71,720
	今年度 合計	229,158	533,691	21,434	784,283	760,570	23,713

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	○	備品等の経年劣化による更新・修繕費用として予備費に計上している。
② 今年度下半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	○	備品等の経年劣化による更新・修繕を下半期に集中して実施したことによる支出増加。
③ 収入額又は支出額が前年度下半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等

基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：大規模修繕：指定管理者と協議、各所営繕工事・計画修繕工事：県、これ以外：指定管理者

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	24,456	管理棟屋上防水工事
合計	24,456	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	98 人	99 人	▲ 1.0 %
11月	98 人	99 人	▲ 1.0 %
12月	100 人	100 人	0.0 %
1月	100 人	99 人	1.0 %
2月	98 人	100 人	▲ 2.0 %
3月	97 人	96 人	1.0 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	600 人	578 人	597 人	▲ 3.7 %	▲ 3.2 %
今年度下半期計	600 人	591 人	593 人	▲ 1.5 %	▲ 0.4 %
今年度合計	1,200 人	1,169 人	1,190 人	▲ 2.6 %	▲ 0.0 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	利用者の高齢化とともに、入院日数が増加したり、入退院を繰り返したりする利用者が増えてきた。また、死亡する利用者も目立つようになってきたことが理由である。
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)

(参考)

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

8 事故や不祥事等の発生状況

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)
12月18日	園内理容時椅子から左側に転倒し腕と肩を床に打ちつけてしまう。	痛がる様子が確認されたため病院に通院しレントゲン結果、左上腕の骨折が確認される。	普段、食事等の際には肘つき椅子を利用していたが、理容時には肘つき椅子を使用していなかった。今後は理容の際にも肘つきいすを利用する等、利用者の障害特性に配慮した支援方法を徹底する。
12月20日	午後の入浴中に浴槽に沈んでいく利用者を発見し引き上げタッピング、看護師による酸素100を酸素吸入する。	救急車を要請し溺水、誤嚥性肺炎で病院のICUに入院する。	入浴の浴槽介助者2名のうち洗体介助者は浴室に背を向けて介助していた。今後は、入浴介助の職員相互で声かけによる確認を行いながら、入浴中の利用者から目を離さない対応をするよう徹底する。
2月26日	日中活動中座っていた椅子から立ち上がる際に立位が保てず尻餅をつく。	痛みがある様子が確認されたため、すぐに病院へ搬送しレントゲンの結果、胸椎第12番圧迫骨折が確認される。	立ち上がりや歩行時に転倒の可能性がより高い利用者の特性について、他セクションの職員に十分に周知されていなかった。改めて本人の障害特性について情報提供を行い、統一した支援方法の徹底を図る。

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

今期も安定した取組みは概ね達成出来、安定した事業運営がなされたと考えている。利用者の平均年齢が毎年上がる中、加齢による医療的ケアの必要な方も増加しているが、利用者状況に併せて職員の医療的ケアのスキルアップに積極的に取り組んでおり、適切な利用者支援に行われるように努力している。

利用者の地域移行は積極的に取り組んでおり、現在施設入所の利用者についても、その可能性の検討を押し進め、地域生活実現に向け試行していることは評価できる。また、現在地域生活を行っている利用者の中には、身体状況等により地域生活が困難な状況となった方もいることから、そういった方への支援のあり方についても検討する必要があると思われる。

高齢の利用者が多く中で、入院する方も多く、また、亡くなられる方も出ており、今後は、高齢の知的障害者が安心して、豊かな暮らしを実現するための取組みを積極的に進める必要があると考える。